

えりも岬国有林治山事業の概要



北海道森林管理局 日高南部森林管理署

平成26年 4月

撮影 平成21年 9月

1. 事業の概要

- 1) 位置 幌泉郡えりも町字えりも岬
日高南部森林管理署 3219～3221林班
北緯41～42度、東経143度
大沼公園より僅かに南、江差より僅かに北にあたり、
帯広市のほぼ真南に位置する。
えりも町本町から14kmの地点にある。
- 2) 面積 国有林面積 約421ha
優先緑化対象面積 約192ha
- 3) 地況 標高5～70mの丘陵地形をなし、表土は砂土、砂質
土壌、上部に有珠、樽前火山灰が被覆し、土壌型の大半
は黒色土である。
- 4) 気象 年平均風速は8.0m/s、風速10m/s以上の日が年間
250日以上にも及び、20m/sを越える日数も40日
を越えるなど、全国でも屈指の強風地帯である。
また、霧の日も多く、年濃霧発生日数は100日以上
に達する。(5～8月の月平均日数は約20日)

平均気温	7.0℃	降水量	1,113.5mm
年平均最高気温	14.5℃	最高気温	25.3℃
年平均最低気温	1.9℃	最低気温	-8.7℃
年平均風速	7.9m/s	最大瞬間風速	46.9m/s

*平成25年の統計

2. 事業着手の経緯

- 1) えりも岬国有林は、えりも岬の東側沿岸に沿って北側に細長く伸びる約421haの地区である。
この地区は、戦前内務省所管の国有林として北海道庁が管理していたが、林政統一によって農林省所管となった。
※林政統一：昭和22年、農林省山林局所管の旧内地国有林、宮内省帝室林野局所管の御料林と内務省北海道庁所管の北海道国有林の3つに分かれていた国有林が、
農林省山林局（林野庁）で一元的に管理経営されるようになったこと。
- 2) この地区は、古く明治時代から開拓が行われ、燃料材としての森林の伐採や家畜の放牧等により次第に植生が失われ荒廃が進んでいった。
- 3) この結果、砂や泥が飛び交い住宅や飲料水の中に入り込むなど、住民の生活環境を悪化させ、同時に生活基盤である近海を汚濁し、魚や海藻の水揚げ高が激減し、
漁業経営を悪化させていった。
- 4) このため地元の町や住民から『えりも岬国有林』の緑化に対する強い要望が出され、昭和28年に浦河営林署えりも治山事業所を開設し『はげ山復旧事業』として
緑化事業を開始した。

経緯	昭和25年 8月	道立自然公園に指定
	昭和36年 7月	飛砂防備保安林に指定
	昭和39年 4月	道立公園第1種特別地域に指定
	昭和51年11月	レクリエーションの森(えりも風景林)に指定
	昭和52年 3月	資源培養の森に指定(192ha)
	昭和56年10月	日高山脈襟裳国定公園に指定
	昭和58年 5月	『日本の名松100選』に選定
	昭和62年 1月	『日本の白砂青松100選』に選定
	平成 4年 6月	えりも岬国有林緑化事業40周年記念『92緑と魚のフェスティバル』開催
	平成 4年12月	人事院総裁賞受賞(浦河営林署)
	平成 5年 6月	朝日森林文化賞受賞(えりも治山事業所・えりも町)
	平成 6年 4月	保健保安林に指定
	平成 6年 8月	魚つき保安林に指定
	平成 8年 7月	『日本の渚100選』に選定
	平成10年 4月	第9回みどりの文化賞受賞(えりも岬の緑を守る会)
	平成15年 4月	第37回吉川英治文化賞(えりも岬の緑を守る会)
	平成15年 5月	えりも岬緑化事業50周年記念『2003森と海のフェスティバル』開催
	平成18年 9月	天皇后両陛下 えりも岬国有林緑化事業地行幸啓
	平成25年 6月	えりも岬緑化事業60周年記念『2013森と海のフェスティバル』開催
	平成25年 9月	えりも岬緑化事業60周年記念『岬の緑を守る会・仲間森林づくり事業』開催
	平成25年10月	『後世に伝えるべき治山～よみがえる緑～』に選定

3. 事業の経過

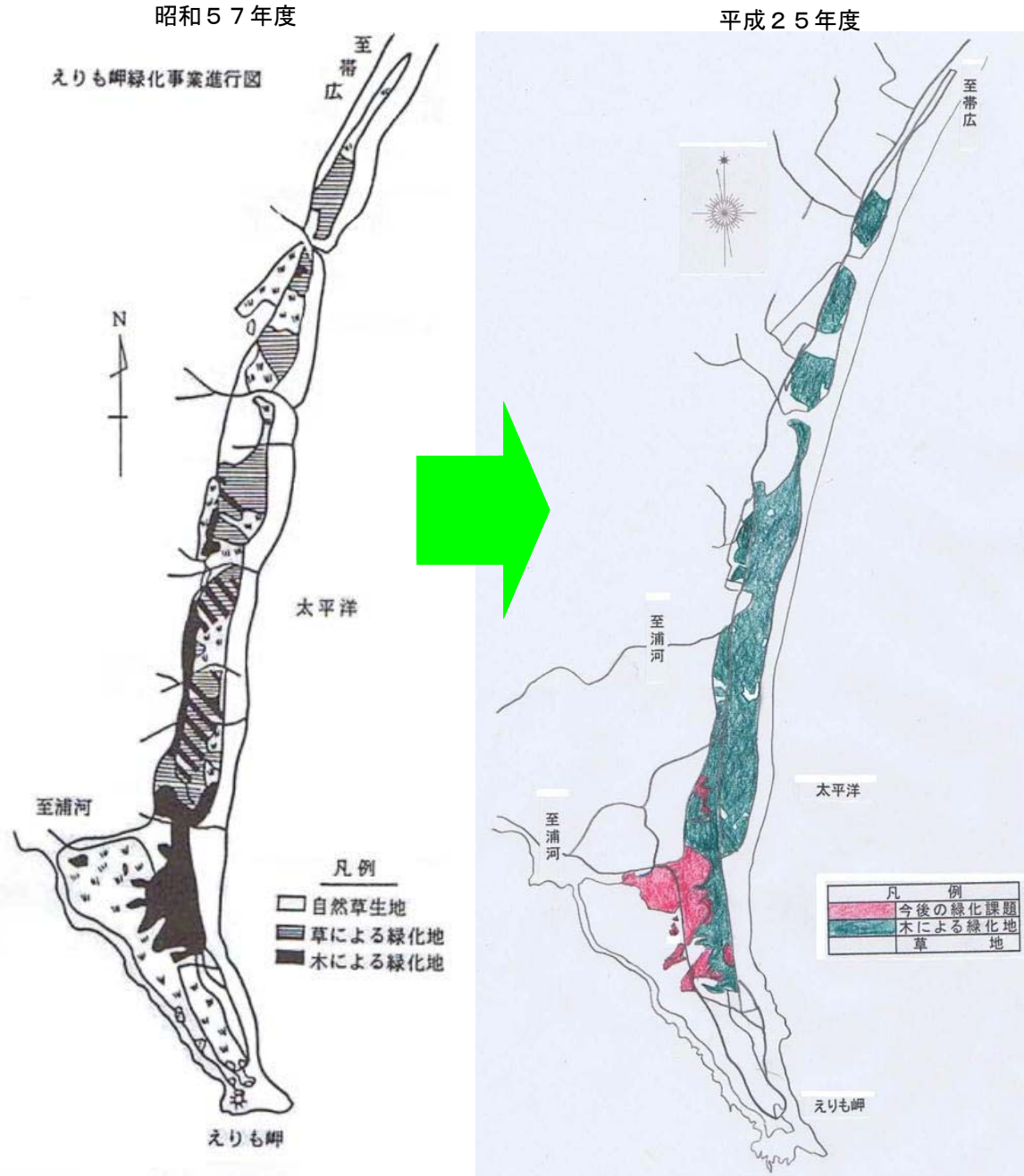
1) 草本緑化

緑化は、えりも国有林約421haの内、裸地化した荒廃地約192haを早期に覆うため草本緑化から開始した。

えりも特有の強風により播いた種子が飛ばされるなど試行錯誤を繰り返す中、昭和32年『えりも式緑化工法』を開発。これは種子を播いた後に、飛砂と乾燥防止を目的として雑海藻を敷く工法である。

この結果、昭和45年には荒廃地約192haの草本緑化をほぼ終えた。

播いた種子はオーチャードグラス、チモシーの外7種類を使用した。



2) 木本緑化

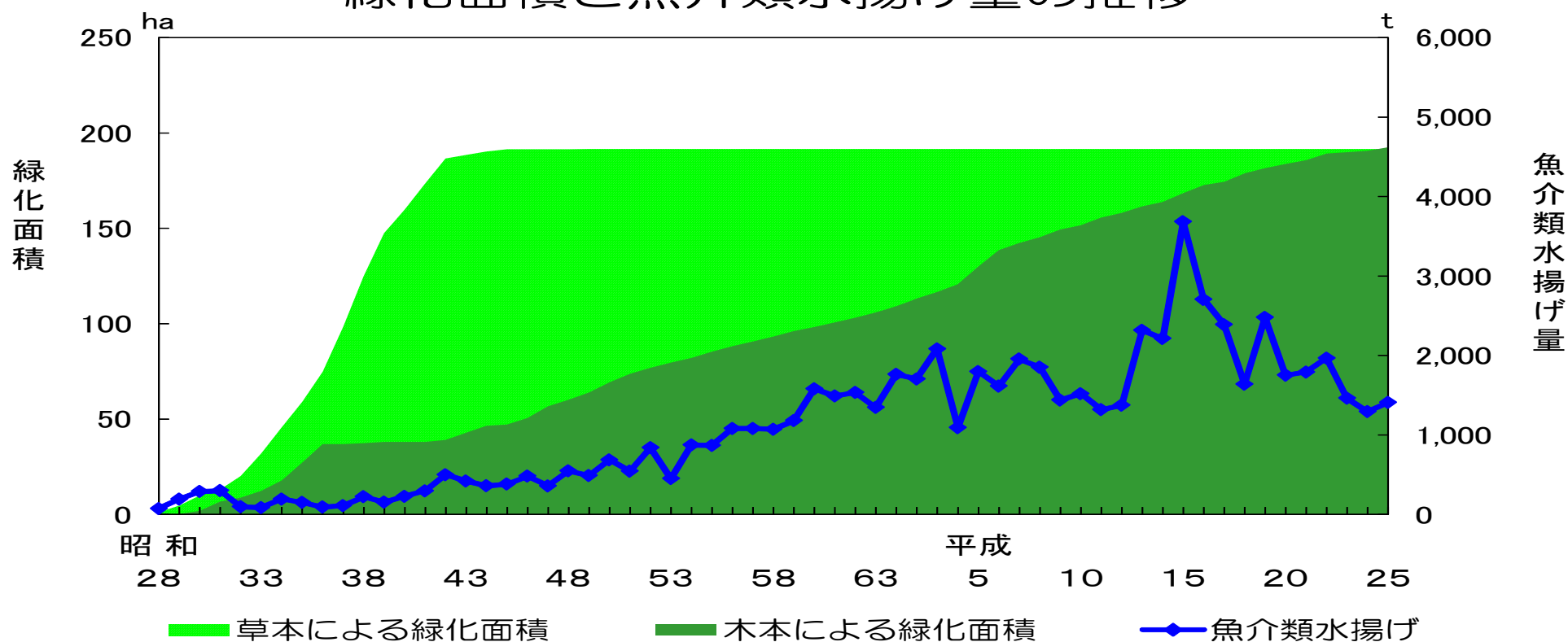
木本緑化は、草本緑化が終了した土地に順次行ってきたが、当初の生育は思わしくなく、植栽を一時中断するなど試行錯誤を繰り返した。

植栽樹種もクロマツの外幾種類もの木本を試植したが、結果的にクロマツが最も良く、現在までクロマツを主体に緑化を進めてきており、平成25年度末までに約193haの木本緑化を実行した。今後は強風地帯である高台への緑化が課題となっている。

4. 事業の成果

- 1) 草本緑化のほぼ80%を終えた昭和40年頃から飛砂と土砂の流出が減少し魚介類の品質の向上から水揚げ高も伸び、集落の生活環境も改善されてきた。
- 2) 草本緑化をほぼ終えた昭和45年頃から魚介類の水揚げ量も急速に伸び始め昭和40年度227tに対し、平成25年度1,407tとなっている。また、昆布の品質も著しく向上するなど地元産業への貢献は大きい。
- 3) 地元漁業協同組合が国有林内で森林づくりに携わってきた歴史も古く、森林と漁業の関係についての理解が深い土地となっていることも、緑化事業の成果といえる。
- 4) 昭和28年度から平成25年度末までの間に約19億円の経費と労働力を投入し、関係者の長期にわたる苦勞に支えられている。
- 5) このように失われた緑の回復が如何に困難か、緑の恵が如何に大きいかをえりも岬の緑化は物語っている。

緑化面積と魚介類水揚げ量の推移



えりも砂漠を再び森林に

1) 治山事業（緑化事業）は、林地の荒廃に起因する災害を予防、復旧し、国土基盤の形成、森林の水源かん養機能の拡大強化、森林による生活環境の保全形成等を図り、地域振興に寄与する目的をもっている。

しかし、その事業には長い年月と多くの労力と費用がかかる。昭和28年度から平成25年度まで、えりも緑化事業に使用した総事業費を現在の金額に換算すると約47億円にもなっている。

2) 現在のえりも岬国有林緑化事業の作業の流れ



①地拵（じごしらえ）

下草などで覆われた地面をならす
地下水位が高い場所は排水溝を掘る



②防風垣設置（ぼうふうがきせっち）

強風から苗木を守るため設置



③植付（うえつけ）

苗木を写真のように植える



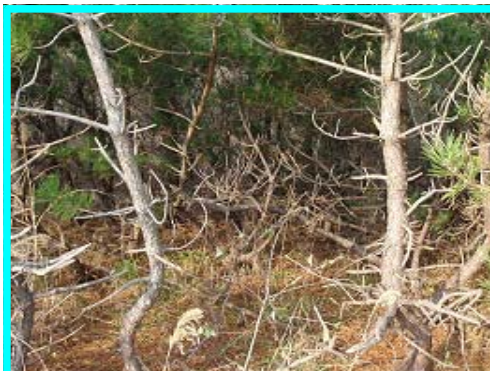
④根踏（ねぶみ）

冬の強風や地面が凍ることにより写真のように根元が緩むので踏み固める



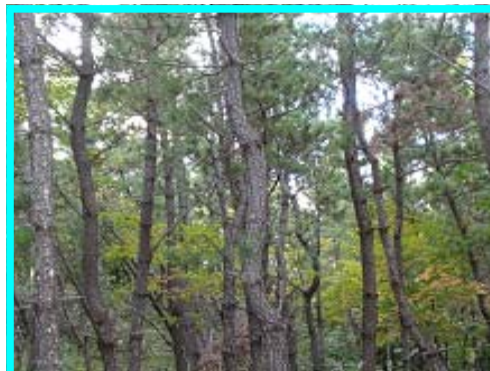
⑤下刈（したがり）

植栽木に光が当たるように写真のように
下草を除草する



⑥枝打（えだうち）

林内環境整備のため枝を切る



⑦本数調整伐（ほんすうちょうせいばつ）

林内環境整備のため木を伐採する



⑧樹下植栽（じゅかしょくさい）

針広混交林化のため針葉樹の本数調整
伐跡に広葉樹を植える

写真で見る『えりも岬国有林緑化事業のあゆみ』



緑化事業開始前（昭和28年頃）



えりも砂漠を行く“キャラバン”



“えりも式緑化工法”
草を根付かせるため雑海藻をしきつめる
住民と試行錯誤の末開発したもの



現在の風景
（手前の看板には昔の風景写真が掲示されている）



現在の林内
クロマツの合間に自然侵入した広葉樹が見られる



今も多くの人々に支えられて緑化事業は続いている
（写真は平成25年6月えりも緑化事業60周年記念植樹祭）

写真で見る『蘇ったえりも岬国有林緑化事業地での出来事』



平成18年9月5日天皇皇后両陛下の、えりも岬国有林緑化事業地行幸啓



JICA(国際協力機構)の海外研修生がえりも岬緑化事業を視察にきました



JICA(国際協力機構)の海外研修生と緑化に関わっているえりも地域住民との対話集会も行われました



平成24年10月えりもワクワク森林づくり植樹祭
-いのちの森づくりリレー植樹-



平成25年6月えりも岬緑化事業60周年記念-調印式-
「ふれあいの森」における森林整備等の活動に関する協定
「えりも伴々の森」における活動支援のための基本協定
町民以外もえりも岬国有林緑化に参加できるようになった



平成25年9月えりも岬緑化事業60周年記念
『岬の緑を守る会・伴々森林づくり事業』枝打実施

えりも岬国有林緑化事業地を環境教育の場として

地域の特性を活かし、平成18年度からえりも中学校・高校がえりも岬国有林の緑化事業について学習し、植樹や育樹作業などの森林体験から生活環境の保全形成の大切さ、困難なことにも挑戦する大切さを学んでいる。



えりも中学校の生徒が、環境教育として広葉樹(ミズナラ)を植樹しました。



えりも高校の生徒が、環境教育として育樹作業でクロマツの枝を切り落としました。また、中学生の時に環境教育として植えた広葉樹の生長を観察しました。



今後の展開

～植樹から育樹へ～

えりも岬国有林では、木本緑化の初期は強風に耐えるためヘクターあたりの植栽本数は通常植栽本数の約5倍に相当する高密度で植樹を行ってきたことに加え、ほとんどがクロマツ(針葉樹)の一斉林であるため、万が一病虫害が発生した場合には大きな被害を受ける心配があります。

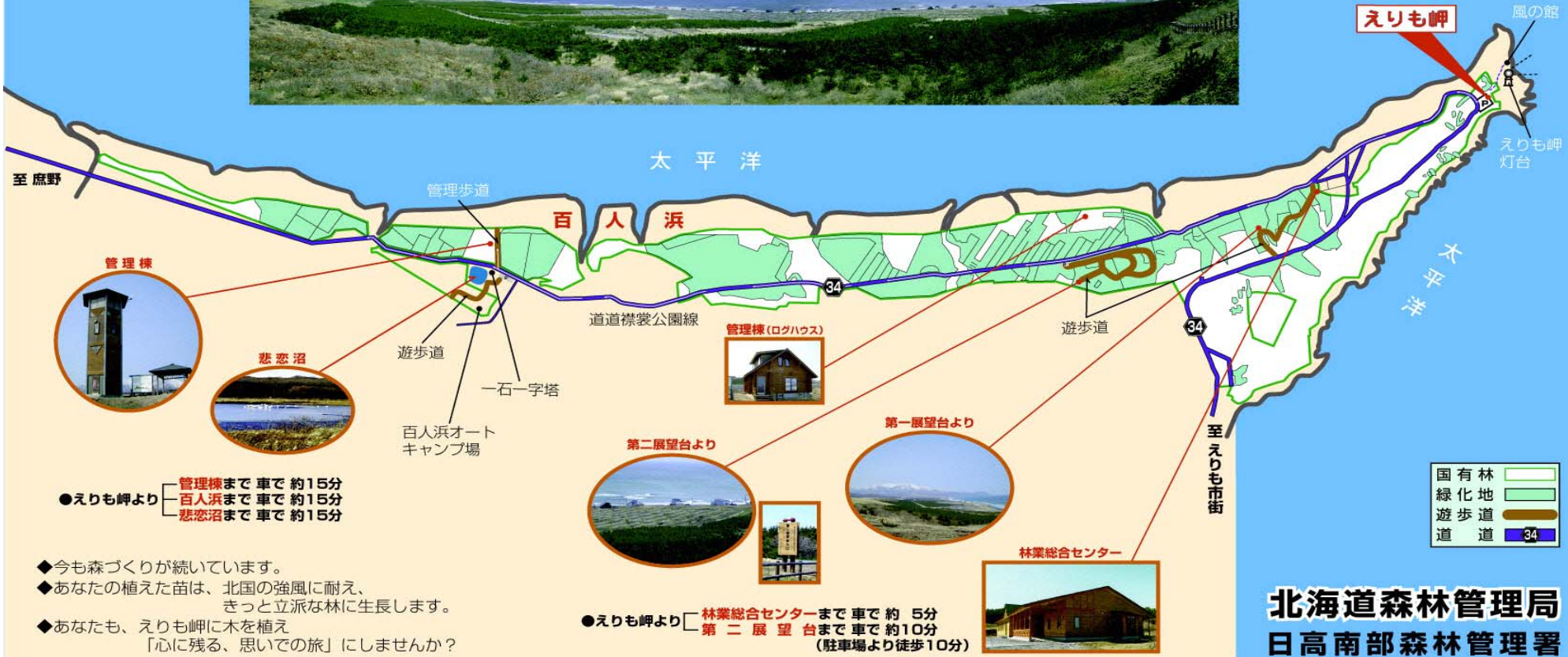
そこで、クロマツ自身の肥大成長と在来の広葉樹の侵入を促し、病虫害に強い健全な林分に誘導することを目的に、平成2年度から枝落としや本数調整伐といった施業を行い、砂漠化する前のえりもの森林を指向しています。

今後も海岸防災林造成事業として緑化事業を推進していくとともに、地域との強い連携を保ちながら海岸林の造成事業の見本となり多くの方々に森林と海の絆にふれていただけるような森林づくりを進めていきます。

えりも岬国有林緑化事業



緑が続く大地と青い海が蘇った半世紀を超えるあゆみ



●えりも岬より
 管理棟まで車で約15分
 百人浜まで車で約15分
 悲恋沼まで車で約15分

- ◆今も森づくりが続いています。
- ◆あなたの植えた苗は、北国の強風に耐え、きっと立派な林に生長します。
- ◆あなたも、えりも岬に木を植え「心に残る、思いでの旅」にしませんか？

●えりも岬より
 林業総合センターまで車で約5分
 第二展望台まで車で約10分
 (駐車場より徒歩10分)

北海道森林管理局
日高南部森林管理署